

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日	千葉 茂	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地		
学校法人片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
目的	医療人としての資質を育て、社会に貢献できる人材を育成する。伝統的な医療と現代の医療の両方に通じた医療人となり、広く地域社会に貢献できるよう教育する。					
分野	課程名		学科名	専門士	高度専門士	
医療	医療専門課程		鍼灸科	平成17年文部科学大臣告示第30号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験
3年	昼間	2235	1815	0	855	0
						単位時間
生徒総定員	生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人	83人		7人	25人	32人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定</p>	
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p> <p>卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>	
生徒指導	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭</p> <p>■サークル活動: 有</p>	
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等 株式会社アミ 株式会社オン・アンド・オン 株式会社カスケード東京 株式会社ケア・トラスト 株式会社トリート</p> <p>■就職率^{※1} : 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 79.4 %</p> <p>■その他</p> <p>(平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)</p>			主な資格・検定等	はり師・きゅう師	
中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 平成27年4月1日時点において在学者 89名 平成28年3月31日時点において在学者 88名</p> <p>■中途退学の主な理由 病気療養</p> <p>■中退防止のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 担任による指導の他、経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においては学生相談室と連携し、個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p>			<p>■中退率 1.1 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)</p>		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省による鍼灸師養成施設基準に準拠しより良い医療人を輩出できるような授業の実施をめざし、企業等と連携体制を確保して、現在の鍼灸業界の動向を鑑み、時代の流れに則した対応ができるよう、現場の状況を意見として取り入れていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校长、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
九原 慎介	一般社団法人 日本姿勢教育協会	H28年4月～H29年3月	①
関 昌勝	関鍼灸治療院	H28年4月～H29年3月	③
長澤 洋二	ながさわ治療院 院長	H28年4月～H29年3月	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長		
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長		
宇南山 伸	日本工学院八王子専門学校 科長		
渕川 達也	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 係長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、3月と9月

(開催日時)

第1回 平成28年3月30日 14:00～15:30

第2回 平成28年8月1日 11:00～12:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・「鍼実技5・6」施術に入る前の操作である、消毒の方法に対する現場での意見などを伺い、実技授業などでも取り上げるようにした。

・「鍼実技4・5」対患者さんに対するコミュニケーションスキルをあげるべく、実技時間内に「声掛け」などが重要であることを徹底するようにした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

鍼灸師養成施設基準に準拠する。

臨床現場で活躍する鍼灸師(教員資格有り)に講義を行ってもらい、より現場に近い授業を提供している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

普段の臨床現場で行う技術・判断などを中心に実習を組み立てていただいている。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
はり実技3・4	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	こぼり治療院
はり実技5・6	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	あいのわ鍼灸治療院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成27年11月8日 全日本鍼灸学会 学術大会(関東支部学術集会 有明)「軟部組織の障害、その原因と鍼灸の最前线」に代表者参加 後日科内で研修内容の共有

平成28年6月10~12日 全日本鍼灸学会 学術大会(全国大会北海道)『これからの日本の医療をになう鍼灸-鍼灸治療と医療連携-』に代表者参加 後日科内で研修内容の共有

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年8月2~3 東洋療法学校協会主催の教員研修会(大阪)「あはき教育の現状と課題、夢、未来！」に代表者参加 後日科内で研修内容の共有

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年11月5~6日世界鍼灸学会(筑波)、平成28年11月27日全日本鍼灸学会関東 学術集会(板橋)、
平成29年6月10~11日全日本鍼灸学会 学術大会(東京)

②指導力の修得・向上のための研修等

東洋療法学校協会主催の教員研修会 平成29年8月3日~4日 (鹿児島)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受け入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令・設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

特に学生の受け入れに関する事項に関して、客観的に評価し、ご意見をうかがえるのは有益である。また、地域貢献・社会貢献に対する意識も向上すると感じている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会长 (セントラルエンジニアリング株式会社 グルーフマネージャー)	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
古木 勝紀	株式会社バンパー 取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
長畠 芳仁	NPO法人日本ストレッチング協会 理事長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	医療企業等委員
榎原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成28年7月1日～ 平成29年3月31日(9ヶ月)	医療・保育団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成28年9月12日

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、平成27年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/17332/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			授業方法	場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択		配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			栄養学	予防や治療の一環として重要な「食」の基本を学びます。	1前	30	2	○		○			○	
○			介護基礎	介護の予防に関する基礎知識を学びます	1前	30	2	○		○			○	
○			臨床心理学	患者の心理的背景を理解するための心理学の基礎を学びます。	1前	30	2	○		○			○	
○			コンピュータ1	情報処理リテラシー教育としてのワープロ、表計算について学びます。	1前	30	1			○	○		○	
○			コンピュータ2	情報処理リテラシー教育としてのワープロ、表計算について学びます。	1後	30	1			○	○		○	
○			解剖学1	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造（神経系、内臓系、筋系、骨格系など）について学びます。	1前	30	2	○		○			○	
○			解剖学2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造（神経系、内臓系、筋系、骨格系など）について学びます。	1後	30	2	○		○			○	
○			生理学1	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（循環、呼吸、消化、排泄など）について学びます。	1前	30	2	○		○			○	
○			生理学2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（循環、呼吸、消化、排泄など）について学びます。	1後	30	2	○		○			○	
○			からだのしくみ1	人のからだの構造や形態、その仕組みや機能などを基本から学びます。	1前	60	4	○		○			○	
○			からだのしくみ2	人のからだの構造や形態、その仕組みや機能などを基本から学びます。	1後	60	4	○		○			○	

○		臨床医学各論 1	臨床活動をおこなう上で必要な西洋医学的知識について学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		医療概論	医療従事者としての倫理観、医療の歴史から現代の医療制度までを学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		公衆衛生学 1	臨床活動をおこなう上で必要な西洋医学的知識について学びます。	1 後	30	2	○			○	○		
○		経絡経穴 1	鍼灸施術の基礎となる経穴（ツボ）について、名称や、主治作用について学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		経絡経穴 2	鍼灸施術の基礎となる経穴（ツボ）について、名称や、主治作用について学びます。	1 後	30	2	○			○	○		
○		鍼灸理論 1	鍼灸施術における用具の知識、施術上の注意など基礎的知識について学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		東洋医学概論 1	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		東洋医学概論 2	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	1 後	30	2	○			○	○		
○		手技理論	手技施術の治効理論について学びます。	1 前	30	2	○			○	○		
○		灸実技 1	灸（きゅう）施術の基本技術について実習します。	1 前	30	1				○	○		
○		灸実技 2	灸（きゅう）施術の基本技術について実習します。	1 後	30	1				○	○		
○		手技実技 1	手技施術の基本技術について実習します。	1 前	30	1				○	○		
○		手技実技 2	手技施術の基本技術について実習します。	1 後	30	1				○	○		
○		はり実技 1	鍼（はり）施術の基本技術について実習します。	1 前	45	1				○	○		

○		はり実技 2	鍼（はり）施術の基本技術について実習します。	1 後	45	1			○	○	○		
○		スポーツ 1	定期的なスポーツ活動が健全な肉体と精神の維持に必要であることを、実技を通じて学びます。	2 前	30	1			○	○		○	
○		スポーツ 2	スポーツ障害の防止などについて実技を通して学びます。	2 後	30	1			○	○		○	
○		解剖学 3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造について詳細に学びます。	2 前	30	2	○		○		○		
○		解剖学 4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造について詳細に学びます。	2 後	30	2	○		○		○		
○		生理学 3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（神経、反射、感覚、免疫、代謝など）について学びます。	2 前	30	2	○		○		○		
○		生理学 4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（神経、反射、感覚、免疫、代謝など）について学びます。	2 後	30	2	○		○		○		
○		臨床医学各論 2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 後	30	2	○		○		○		
○		臨床医学各論 3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 前	30	2	○		○		○		
○		臨床医学各論 4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 後	30	2	○		○		○		
○		病理学概論 1	疾病の成り立ちを理解するために、病因、病変、炎症、腫瘍など病理学の基礎について学びます。	2 前	30	2	○		○		○		
○		病理学概論 2	疾病の成り立ちを理解するために、病因、病変、炎症、腫瘍など病理学の基礎について学びます。	2 後	30	2	○		○		○		
○		診察学 1	患者の症状から、疾患名や予後を推測する方法を学びます。	2 前	30	2	○		○		○		
○		診察学 2	患者の症状から、疾患名や予後を推測する方法を学びます。	2 後	30	2	○		○		○		

○		鍼灸理論 2	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	2 前	30	2	○			○	○		
○		鍼灸理論 3	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	2 後	30	2	○			○	○		
○		東洋医学概論 3	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	2 前	30	2	○			○		○	
○		東洋医学概論 4	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	2 後	30	2	○			○		○	
○		診察学応用 1	東洋医学的診断法と西洋医学的診断法を学び、適切な施術を施すための判断力を養います。	2 前	30	2	○			○		○	
○		診察学応用 2	東洋医学的診断法と西洋医学的診断法を学び、適切な施術を施すための判断力を養います。	2 後	30	2	○			○		○	
○		中医学概論 1	中医学の理論的背景について基礎から学びます。	2 前	30	2	○			○	○		
○		中医学概論 2	中医学の理論的背景について基礎から学びます。	2 後	30	2	○			○	○		
○		灸実技 3	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	30	1				○	○	○	
○		灸実技 4	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	30	1				○	○	○	
○		手技実技 3	臨床において手技施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	30	1				○	○	○	
○		手技実技 4	臨床において手技施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	30	1				○	○	○	
○		はり実技 3	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	45	1				○	○		○
○		はり実技 4	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	45	1				○	○		○

○			取穴実技 1	さまざまな疾患の施術を行うため、体表解剖学の観点から、正確な取穴技術を取得する方法を学びます。	2 前	30	1			○	○	○		
○			取穴実技 2	さまざまな疾患の施術を行うため、体表解剖学の観点から、正確な取穴技術を取得する方法を学びます。	2 後	30	1			○	○	○		
	○	海外研修	外国における政治・文化・経済など、社会の変動と諸問題を研究し、現代人として必要な能力を養います。		2 後	60	2		△	○	○			
○		病理学	基本的な薬と人体の関係を学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		スポーツリハビリテーション	受傷から、スポーツ現場復帰までのサポートに関する知識を学びます。		3 後	30	2	○		○		○		
○		解剖学 5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造を機能面も含め総合的に学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		生理学 5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体のしくみを総合的に学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		バイオメカニクス	基礎力学からはじまり、歩行、人体のしくみ（運動器系）について学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		臨床医学各論 5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		臨床医学各論 6	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。		3 後	30	2	○		○		○		
○		リハビリテーション医学 1	鍼灸師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		リハビリテーション医学 2	鍼灸師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学びます。		3 後	30	2	○		○		○		
○		公衆衛生学 2	予防医学を環境との関わりから学びます。		3 前	30	2	○		○		○		
○		公衆衛生学 3	感染や生活習慣病予防、消毒など、予防医学に関して知識を学びます。		3 後	30	2	○		○		○		

○		関係法規	鍼灸師に関する法律から、医療法、医師法など関係法規について学びます。	3 前	30	2	○			○	○		
○		鍼灸理論 4	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	3 前	30	2	○			○	○		
○		東洋医学概論 5	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	3 前	30	2	○			○	○		
○		診察学応用 3	ベットサイドでの検査をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	30	2	○			○		○	
○		診察学応用 4	ベットサイドでの検査をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	30	2	○			○		○	
○		臨床医学特講 1	日常よく遭遇する疾患の施術、診断などの臨床上不可欠な知識を学びます。	3 前	45	3	○			○		○	
○		臨床医学特講 2	日常よく遭遇する疾患の施術、診断などの臨床上不可欠な知識を学びます。	3 後	45	3	○			○		○	
○		漢方薬概論	一般的によく使われる生薬、方剤について学びます。	3 通	30	2	○			○		○	
○		臨床関係総論 1	検査法、施術学、臨床心理学などの知識を基に医療従事者に必要不可欠な総合力を身につけます。	3 前	30	2	○			○		○	
○		臨床関係総論 2	検査法、施術学、臨床心理学などの知識を基に医療従事者に必要不可欠な総合力を身につけます。	3 後	30	2	○			○		○	
○		灸実技 5	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	30	1				○	○	○	
○		灸実技 6	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	30	1				○	○	○	
○		はり実技 5	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	45	1				○	○		○
○		はり実技 6	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	45	1				○	○		○

<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	臨床演習・実習	指導教員のもとで、診察、施術までの一連の流れを実習します。	3 後	45	1			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	合計			82科目						2685	単位時間(147単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目2625時間(145単位)取得すること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。